

# かたりべ 34

豊島区立郷土資料館だより



平塚市博物館収蔵庫内で学芸員から収蔵資料  
についての話を聞く参加者



川越市立博物館では、学芸員・指導主事から、展示に関わるか  
なり専門的な話から児童・生徒へどのような解説を行なってい  
るのかまで聞くことができた

## 博物館で何だ？

郷土資料館では、去る三月六日・一三日・二  
〇日・二七日の四回シリーズで博物館講座「博  
物館で何だ？」を開催いたしました。

この講座は、地域博物館で行われる諸活動の  
内容を参加者の方に理解していただき、博物館  
理解者層の裾野を広げていこうと企画したもの  
です。ことに、従来行われてきた「展示」説明  
を中心とした「博物館見学会」ではなく、ふだん  
利用者が見学することのできないバックヤード  
(収蔵庫・作業室など)部分の見学に重きを置  
いたことに特徴があります(ご協力いただいた  
平塚市博物館・川越市立博物館・新宿歴史博物  
館の皆さまありがとうございました)。

講座終了後の参加者からのアンケートには、  
「今まで何気なく(博物館に)足を運んでいた  
だけでしたが、これからは、この博物館は私  
たちに何を伝えたいのだろうか」と考えながら見  
ることにします。」など、今後博物館との接し  
方を変えてみようという方もみられました。

単なる「遊び場」、あるいは「人寄せの場」  
となっている博物館が出現している今日、毎日  
の地域住民との繋がりを基礎に、資料を収集・  
整理し、調査・研究をかさね、その成果を社会  
に還元していくという、地域博物館ならではの  
基本姿勢は守っていききたいものです。(秋山)



# 特集 新館設立に向けてVIII 博物館の仕事ってナニ？ (2)

前々号の『かたりべ32号』から始まった「特集」の新シリーズ「博物館の仕事ってナニ？」は、今号から気持ちも新たに復活です。

今回は、いま評判（えっ、どこで？）の「豊島区地域地図集」ができるまでを紹介したいと思います。

地域地図集とは、豊島区を含む古い地図や絵図類を複製して、むかしの豊島区の様子を視覚的に紹介するもので、一九八七年からほぼ毎年刊行されています。最新の地域地図集は第六集で、東京都公文書館に収蔵されている「千川上水路図」を複製しました。



こんなに大きな図面を複製したのです

この地域地図集は、第1集～第5集までとは異なり、豊島区という行政単位にこだわるこ

なく、千川上水が玉川上水から分水される地点（東京都保谷市）から巢鴨の沈澱池までの全流域を複製したものです。豊島「区」で作成する「豊島区地域地図集」なのになぜなんだろう？

どうしてなんだろう？ と思われる方もいらっしゃるかと思いますが、これには深いワケがあるのです。

それでは、そのワケについて、以下物語風にお話ししましょう。

I 『豊島区地域地図』第6集 近代編「千川上水路図」刊行前史

この物語は、一九九二年二月～三月に開催した千川上水展終了直後の学芸員会議（通称・学芸会）での他愛のないこんな会話から始まる。

A 特別展終了おめでとーございます。

B ありがとー。ようやく一段落したよ。皆さんの並々ならぬご協力に、感謝/感謝！

C 盛況でよかったですね。会期が短かったわりには来館者が多かったし。

B なに/それは準備が遅れたから短期間になったという皮肉かい。

C 違う、違う。もちろんいい意味で。

A 本来に来館者は多かったね。区民の水辺に対する意識は相当に高いようですね。

B 郷土資料館開館以来、何回か川に関する講座やフィールドワークをしたけど、どれも参加者が多かったようだし。やっぱり豊島区に一本も川が流れていないせいかなあ。

A それもあると思いますよ。この間のフィールドワーク（一九九一年十月に開催した水辺探索フィールドワーク「千川上水を歩いて・見て・記録する」）の参加者も、ものすごく熱心だったものね。

C 今回の特別展のアンケートでも「地図を片手に千川上水を歩いてみたい」という感想がいくつかありましたよね。

B そうしてもらえたらうれしいなあ。展示が実際のフィールドとマッチすれば、より立体的に地域を理解できるようになると思うんだけど。

C 展示資料が少ないのもカバーできるし……

B ああ、一々ひっかかることを言うね。

C いえ、いえ、それほどでも。でも展示期間の前半に展示していた「千川上水路図」は、いい資料でしたね。

A 記念講演会

も大盛況だったし、来館者の方で、ケートスに穴があくほど見てた。

保存の関係もあって一カ月しか展示できなかったのは本当に残念だったね。残りの期間は写真を展示したけど、やっぱり原資料でなくちゃだめね。



講師から説明を受ける講座の受講者

B あの図は本当にいい資料なんだ。かなり正確に描かれているし、千川上水の全容が描かれている唯一の資料であると言っていい。あれを見ているだけでも楽しいよ。あの図と現在の地形図を持って、かつての景観を想像しながら千川上水の跡を歩いたらけっこう面白いだろうね。でも実物は持って歩けないし。

A 千川上水研究に熱心な人で、「千川上水路図」を欲しがってた人が何人かいましたよ。

C いっそのこと、複製を作ってしまったらいいよ。

地域図集かなにかで。

A そう、そう。来年の地域図集の内容は、まだ決まってるないし。

B でも、「上水路図」自体が曲がって作ってあるし、五メートルもあるんだよ。作りにくいし大変だよ。お金がかかるだろうし。それに一体誰が担当するの。

AとC同時に Bさんに決まってるでしょ！

(といてBを指差す)

B ……(青ざめる)。だって、俺、来年特別展担当してるんだよ。それに、博物館実習だって、夏の戦争講座だって……。

A 大丈夫ですよ！

C 乗りかかった船でしょう。毒を食らわば皿までもともいうし……。

B よくわかんないなあ。でも、作るからには凝るよ。原寸で、和紙で、解説書付きで……。

いいかげんなものは作れないからね。とりあえず業者さんに見積りだけでも出してもらうか。どうせ値がはってできっこないよ。

数日後、業者が出してきた見積金額はかなり高いものであった。しかし、実現不可能なほどではなかった。次は予算要求である。

B こんな高い金額じゃ、予算担当は承知して

くれないよ(なぜか表情は明るい)。無理だろうなあ(それでも表情は明るい)。

しかし、意外にも予算は要求どおり通った。すなわち、千川上水路図複製へ向けてのゴーサインが出たのである(Bの表情は暗かった)。

## 「千川上水路図」刊行前史(完)

II 地域図集刊行に向けての準備  
年度が明けると実際に刊行にむけての作業が始まります。

まず、大まかな作業日程を決めます。多くの場合、刊行予定日から逆算して決めていきます。過去の地図集の刊行スケジュールなども参考にしながら、印刷・製本に何日。解説書の編集・割付に何日。原稿の執筆に何日。調査・研究に何日。と言う具合に予定を組んでいきます。

予定が決まったら、資料の所蔵者との協議があります。今回の所蔵者は東京都公文書館でしたから、実際に公文書館に出向き、複製の許可、複製に伴う条件などについての話を聞きます。

この千川上水路図の場合は、予算要求の前に、複製を作っているものかどうかの話し合いをしていたため問題はなかったのですが、この順番が狂うと、いざ予算はおいても複製の許可がおりないという状況も発生します。所蔵者との交渉は早め早めにおきたいものです。



複製の許可がおりたら、印刷業者を決めて、打合せをして、最終的な刊行スケジュールを決定します。そして、そのスケジュールに沿った形で実際の作業にとりかかります。しかし：

### III 地域地図集刊行作業の実際

「予定は未定であって決定ではない」という名言どおり、当初の予定通り作業が進むことは稀です（もつとも、これは担当者によって異なりますが）。豊島区立郷土資料館の場合、特別展の担当ではない者が刊行物を担当するシステムになっています。ですが、講座や平常のレファレンス業務、資料の調査・整理などの作業と並行して刊行業務を行なうわけですから、多少の遅れはどうしても出てしまいます。しかし、だからといって作業を先送りしていると、別の業務と重なって泥沼にはまってしまうので、常にスケジュールを調整しながら行ないます。

千川上水路図の複製に当たっては、まず東京都公文書館の担当者立会いのもとで、資料の撮影を行ないます。これは業者に委託しますが、本来は資料の取り扱いに慣れている学芸員が行う仕事です。学芸員も資料撮影のプロではあるのですが、それを専門にしている人にはかきません。まして、地図の複製という非常にデリケートな業務に関しては、その道のプロ中のプロにお任せするのがいいのかもしれない。

一方、編集の担当者である学芸員は原稿執筆に向けての調査と研究を行ないます。地図集を有効に活用していただけるように解説を施すためにはそれなりの調査・研究がどうしても不可欠となります。

### IV 担当者のこだわり

地図の複製のような作業では、担当者もとの資料にどれだけ思い入れるかによって、その出来ばえが左右されます。「千川上水路図」を複製するうえで、担当者には、「これだけは譲れない」という信念（？）がありました。それは、①千川上水の複製は原寸で行いたい。②手に入れた人が少し手を加えれば、現資料と同じ形態に復元することができるようになる。③解説書に地図を掲載し、現況と比較できるようにする、というものでした。

これらの点にこだわってしまった結果、次のような妥協を余儀無くされてしまいました。すなわち、①地図の折りかたは現資料と同じではない。②五枚の地図に分ける（一枚に張り合わせる）、③解説書の刷り色は黒と青の二色刷りにする（本当は三色刷りにしたかった）。そしてもう一つ。この第六集をご覧いただければわかるのですが、絵図の複製、解説書、表紙の写真に加えて、「千川上水路図」の作り方」という紙が入っています。実は、これも担

当者のこだわりの一つなのです。限られた条件の中で、いかに原資料と同じ形に近づけることができるか。担当者の最後のあがきがこの一枚の紙だったので。

このように、担当者の固い（？）信念のもと『豊島区地域地図 第六集近代編』の「千川上水路図」はめでたく完成しました。出来ばえはいかがでしょうか。是非一度ご覧下さい。

今回は、地域地図集刊行にいたるまでの経緯について、第六集の「千川上水路図」を事例にして、紹介しました。

このように、単なる一冊の刊行物にみえるものでも、実は展示や講座に密接に関係しているものなのです。博物館においては、どうしても特別展などの展示がその主要なものと考えられがちですが、本来の博物館の事業とは、展示・講座・刊行物などが相互に関連しあいながら展開されていくものなのです。

えっ、今度の地域地図集の第七集は何か、ですって？（誰もそんなこと聞いてないよ）。それは秘密です。しかし、計画は着々と（？）進んでおります。きつとそう遠くない将来に、第七集をお目にかけることができるでしょう。

さて、次回の「博物館の仕事ってナニ」は何が飛び出すかお楽しみに！

（伊藤）



# 身近なことから地域の歴史を考えたら…… 特別展「テレビがなかったころ落語と映画は娯楽の王様だった」を終えて

三月二七日をもって一九九三年度特別展「テレビがなかったころ落語と映画は娯楽の王様だった」を無事終了することができました。短い会期であったにも関わらず、一九〇〇人近い方々においでいただきました。そこに寄せられたアンケートの中からいくつかをご紹介します。す。(♥は女性・♠は男性です)

♠戦前、大塚、巢鴨、池袋に住んだ者として涙が出る程なつかしい。欲を言えば(ムリなことかとも思うが)戦前の資料をもう少し展示してほしいかった。

◎やはりこのようなご感想が一番多く見られました。

♠落語と映画を題材に採りながら、時代背景をうまく反映させる展示が調査の上よく表れていました。

♠映画館や寄席の分布の変遷が興味深く勉強になった。新体制落語のパネルは全部読んだ。文化と政治の関係が具体的によく分かる。洗濯屋の「アカ」を落とすくんだりもきつと政治的に利用されたのだろう。パネルに工夫があつてよい展示です。

♥池袋の映画館は、戦前からの長い歴史がある

【新宿区73才】  
ということが新たによくわかった。落語で戦中に戦争意欲を高める内容になっていることが、娯楽まで戦争が入りこんでいると悲しい思いがした。

◎この三つのご感想は今回の重要なテーマの一つでしたので、それを理解していただくことができました。また他に……

♥生まれたのは戦後なので、ピンとはこなかったが、むかしの映画ファンには面白いものだろうと思います。

◎この様に冷めた見方をなさる方もいれば……

♠終戦直後、外地引揚げの一六才。東京の焼け跡で日銭をかせぎながら、知人も友人もなく、ヤミ市でスイトンを喰つて……。唯一の「笑い」が寄席の中だった。すべてを忘れて笑えた。江戸弁も憶えた。あの寄席はもうない。御当地はその後の演芸場が唯一だった。

♠私は昭和二二年生まれで、生家は西口駅前(南口)にありました。よく「ホエサ」に行っていました。今回「ホエサ」が「邦映座」であることを初めて知りました。

◎この方々のように「懐かしさ」だけにとどまらぬ感想をお持ちの方もありました。

♥勤め先のある大塚にあんなに沢山、寄席や映画館があるとは知りませんでした。しかもその跡が毎日通っている場所であつたので驚きました。

◎展示を日常生活に結び付けてくれました。

♥とてもおもしろかったです。映画のチラシ・割引券を大切にどうぞとおこうと思えました。都内に寄席が今は四軒しかないのもおどろきでした。

◎このような方が貴重な資料を救うのです。

♠なかなか素晴らしい。各館のオリジナルの印刷物などは、とかく忘れられ、捨てられるものなので、こうした検証は続けて欲しい。最近古い映画の話しても、名作のデータばかり独り歩きしている。当時の「気分」を中心に狙っていて良かった。館の位置と現況の比較はもっとやつても面白い。

◎という示唆に富むご意見もありました。でも、なんといいつも次のご意見……

♠期待していなかった面白かった。工夫されている。目録もキチンとつくって資料もそろっていて気持ちよい。また来る。

◎皮肉たっぷりのきついい御言葉を頂戴して非常にショックでしたが、最後の一言で救われしました。今度は「期待して」来ていただければと思います。

(伊藤)



# 一九九四年度 豊島区立郷土資料館事業予定

郷土資料館では、今年度次のような事業を計画しています。

事業についての詳しい内容や、日程・申し込み方法などにつきましては、「広報としま」や「かたりべ」に随時掲載いたしますのでご参照願います。

## 資料収集・保管活動

- ◎資料館収蔵庫の燻蒸（5月11日～13日）
  - ◎旧宣教師館収蔵庫の燻蒸（5月16日～18日）
  - ◎榎本家・菅野家・三輪家・杉浦家文書の整理
  - ◎収蔵資料台帳の確認作業（通年）
  - ◎寄贈・寄託資料、受入れ図書の整理（随時）
- ## 調査・研究活動
- ◎調査報告書第11集 『豊島氏編年史料II』
  - ◎調査報告書第12集 『千川上水資料集』
  - ◎郷土資料館収蔵資料目録第7集
  - ◎郷土資料館研究紀要 『生活と文化』第9号
- ## 教育・普及活動
- (1)特別展の開催  
（仮称）豊島の産業

会期 9月9日～11月20日

★会期中に特別展記念講演会を三回程度開催す

る予定です。

## (2)講座の開催

◎博物館講座「博物館で何だ？パートII」  
日程 7月7日～7月21日（全四回）

◎歴史講座（仮称）戦争体験継承講座  
日程 8月上旬～下旬（全三回）

◎地域史講座（仮称）中世古文書を読む  
日程 10月中旬～11月下旬（全六回）

◎歴史講座（仮称）江戸の生活と文化  
日程 3月上旬～下旬（全四回）

## (3)刊行物の発刊

◎郷土資料館年報第8号（一九九三年度）

◎郷土資料館だより『かたりべ』34～37号  
その他

◎博物館学芸員実務実習の実施

日程 9月16日～30日

今年度もみなさまが気軽に利用できる資料館にしていくため、いろいろと工夫を重ねていくつもりですので、ご協力のほどよろしくお願いたします。また、各事業についてのご意見・ご感想も是非お聞かせ下さい。

## 郷土資料館なんでもQ&A

**Q** 東池袋のサンシャインシティの場所に、かつて刑務所があったと聞きましたが、本当ですか。

**A** 本当です。現在サンシャイン60が建っている場所には巣鴨刑務所がありました。巣鴨プリズンという呼称が有名ですが、これは一九四五（昭和二〇）年にGHQに接収されてからの呼称です。

巣鴨村大字向原（現在東池袋三丁目）に石川島徒場が移転し、警視庁監獄巣鴨署となったのが一八九五（明治二八）年です。

その後、巣鴨監獄署、巣鴨監獄、巣鴨刑務所と名前を変えました。一九三七（昭和一二）年、府中に既決監機能を移転させ市ヶ谷の未決監機能が移転してきた時に、巣鴨刑務所は東京拘置所と名前を変え、いわゆる「思想犯」を多く収容していました。

戦後、巣鴨プリズン時代には、約四千数百名の戦争犯罪人（戦犯）が収容され、極東国際軍事裁判で死刑宣告を受けたA級戦犯七名の処刑もここでおこなわれました。

一九五二年に巣鴨プリズンは日本に移管され、再び巣鴨刑務所と改称し、一九六二年廃庁となります。  
（伊藤）

## 連載 一点の資料から

### 《その8》

## 木像に豊島氏の謎を探る

横浜市金沢区富岡にある慶珊寺というお寺の本尊の脇に、四体の木像が納められています。三体は男の姿ですが一体は女性です。四体とも

作者は同じものとみられ、同時に造られたものと推測されます。これらの木像は台座の上に乗っていますが、その内の二体の台座には次の様な銘文があります。

(1)

奉致造立豊嶋刑部少輔明重御願少年五十才也。  
当寺大旦那新建立也。当地御地頭也。

寛永五季<sup>戊辰</sup>八月十日寂滅 願主伝雅

「越祖英超」

(2)

奉致造立豊嶋刑部少輔明重息豊島主膳正吉継  
公少年十三才也。

寛永五季<sup>戊辰</sup>八月十四日入滅也 願主伝雅

この銘文によれば、この二体の像は豊島明重とその息子の吉継であることがわかります。明重は五十才で、また吉継は十三才で死んでいますが、興味深いことにその日は四日ずれているだけです。親子が続けて死んでいることから、何か不幸な死というものを想像させますが、それはなんでしょうか。

『徳川実紀』をあたってみると、明重の死と

同じ寛永五(一六二八)年八月十日に江戸城中

で大事件が起きました。老中井上正就が刺殺さ

れたのです。そして、その犯人が当時目付の豊

島明重(信満)だったのです。『実紀』による

と明重は翌日切腹させられ、息子は十四日に同

じく切腹させられます。原因は「婚約違変の事」

とあるように、結婚をめぐるトラブルであった

ようです。他の二体の木像は明重の父頼重と母

慶珊であると伝えられていることから、この四

体の木像は、切腹という悲憤の死を遂げた明重

とその子及び両親の菩提を弔うために造立され

たものと考えられます。

この豊島明重は武蔵豊島氏とどのような関係

があるのでしょうか。明重の父頼重は、後北条

氏に属する武士でしたが、豊臣秀吉の小田原攻

めの際に忍城(埼玉県行田市)で戦死しました。

頼重は布川城(茨城県利根町)を本拠としてい

たことから、この一族を布川豊島氏といいます。

従来布川豊島氏は、武蔵豊島氏の一族が布川に

領地を獲得して武蔵から布川に移住し、太田道

灌のために武蔵豊島が滅ぼされた後も生き続け

たものと考えられています。しかし、このこと

を直接に示すような史料はなく、武蔵豊島氏と

布川豊島氏の関係は今でもなお大きな謎となっ

ています。

現在郷土資料館では、『豊島氏関係史料集(3)

豊島氏編年史料II』の編集を進めています。が、

布川豊島氏の関係史料を調査・研究して、この

謎を解明する努力が続いています。

(小林)



豊島頼重座像(慶珊寺所蔵)



# 豊島区立郷土資料館からのお知らせ

## ★刊行物発刊のお知らせ

郷土資料館研究紀要『生活と文化』第8号

今号は、郷土資料館学芸員以外の研究者からも四編の論考をお寄せいただき、特別展批評二編と研究論文六編の計八編を収録することができました。構成は以下の通りです。

### 【特別展批評】

大石学「一九九三年度特別展『植木屋のある風景』をみて」／鈴木靖「特別展『植木屋のある風景』によせて」

展『植木屋のある風景』によせて」

### 【研究論文】

豊島区史研究会「木村秀崇氏関係文書の現代史資料としての意義」／青木哲夫「疎開させる側の論理」／横山恵美「自由画教育の提唱者・山本鼎の教育実践」／秋山伸「染井植木屋における精神生活の一側面」／蔵持重裕「五輪塔について―編年作業ノート―」／小林一岳「中世関東における一揆と戦争」

〔頒布価格 一六〇〇円〕

## ★博物館講座「博物館で何だ？パートII」（全

### 四回）開催のお知らせ

去る三月に四回にわたって実施した博物館講座の続編として実施します。今回は地域博物館のなかでも、博物館機能と文書保管機能両方を有する施設を見学することにしました。

前回ご参加いただいた方はもちろん、前回参加されなかった方にも理解できるようにスケジュールを組んでありますので、お気軽にお申し込みください（詳しい内容については、第1回目のガイダンスにてご説明いたします）。

第1回 7月7日（木）午後六時～八時三〇分

内容…ガイダンス・前回講座の概要説明など

会場…勤労福祉会館4F第3会議室

第2回 7月9日（土）午後一時～四時

小山市立博物館（JR宇都宮線間々田駅より徒歩

八分）の見学

第3回 7月16日（土）午後一時～四時

八潮市立資料館（東武伊勢崎線草加駅より徒歩

二〇分）の見学

第4回 7月21日（木）午後六時～八時三〇分

内容…講演会（仮題）地域博物館における文

書保存とその活用）講師…新井浩文氏（埼玉県

立文書館学芸員）、総まとめ

会場…勤労福祉会館4F第四・五会議室

定員 30名（電話申し込み先着順、但し全回出席

席できる方）なお、第4回の講演会のみに参加

もできますので、お申し込みの際にその旨お申

し下さい。

## 編集後記

しばらくのご無沙汰でした。新年度になつて最初の発刊となる『かたりべ』第34号をお届けします。

今号からものノーマルバージョンに戻し、「新館設立に向けて」の特集記事も復活しました。

\* \* \*

先日、当館収蔵資料の燻蒸作業に伴い、展示室内の展示替えを行いました（八月末日まで）。

今回の展示テーマは「空襲と学童疎開」です。今年には集団学童疎開が始まって五〇年目にあたります。そこで、子どもたちを巻き込んだ戦争の一側面として忘れてはならない疎開と、その根源である空襲を特集しました。新たに公開する資料も多数あります。来年の敗戦五〇年に向けて戦争を考える素材にしていただければと思います。

かたりべ

・No.34

1994年6月10日  
発行

・豊島区立郷土資料館

・豊島区西池袋2-37-4

・電話03-3980-2351

豊島区広報印刷物L3-06-091  
本紙は再生紙を使用しています